

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 2 月 10 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (2/10 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1 号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	15.2 °C	105.7 kPa abs	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.04 vol%
2 号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.5 m ³ /h	25.1 °C	3.83 kPa g	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 2.9 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
3 号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.0 m ³ /h	22.3 °C	0.21 kPa g	A系： 0.09 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.07 vol%

*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【3号機原子炉建屋5階中央部近傍(機器貯蔵プール側)での湯気発生状況】

- ・H26/2/9 8:15 頃 湯気をカメラにて確認。(気象データ [2/9 8:20 時点]：気温 1.9°C、湿度 94%)
- ※プラント状況、モニタリングポスト指示値等に異常なし。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (2/10 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1 号機	循環冷却システム	運転中	10.0 °C
2 号機	循環冷却システム	運転中	9.9 °C
3 号機	循環冷却システム	運転中	7.9 °C
4 号機	循環冷却システム	運転中	12.9 °C

- ※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルヘヒドラジンの注入を適宜実施。
- ・H25/11/18 15:18～ 4号機使用済燃料プールから燃料を取り出す作業を実施中。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2 号機	2 号機 タービン建屋	→ 3 号機 タービン建屋	2/10 10:00 ～ 移送実施中
3 号機	3 号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物 減容処理建屋 [高温焼却炉建屋])	1/24 14:37 ～ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (2/10 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	運転中*1	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 当面は、3系列のうち2系列による運転を実施することで2系列運転の稼働率を向上させていくこととし、準備が整い次第、3系列の同時運転を実施予定。

< 多核種除去設備 >

- ・B系：腐食対策有効性確認のため、H26/1/25 3:22 に処理運転を停止。2/10、腐食の発生および進展が大きく抑制されており腐食対策が有効的であることが確認されたことから、準備が整い次第、処理運転を再開予定。なお、B系の処理運転再開をもってして、A、B、C3系列による処理運転の開始予定。

< 5. その他 >

- H25/1/29～凍結管を設置するための削孔については、掘りあがった温度測定用の孔にカメラを挿入して、トレンチ内部状況を再度、慎重に確認したうえで削孔開始することとしていたが、トレンチ内部の状況が確認できたことから、凍結管を設置するための削孔を実施中。
- H26/2/10 11:30頃 5,6号機北側のFタンクエリアにおいて、5,6号機地下滞留水を浄化した構内散水用の水を、散水車へポンプで移送していたところ、ポンプから水が漏えいしていることを当社社員が発見。漏えい量は10～20リットル程度で、漏れた水は堰内の鉄板上に留まっており、漏えいは停止していることを確認。その後、現場を確認したところ、当該ポンプのケーシング部が凍結の影響により破損し、漏えいが発生したものと推定。当該ポンプについては交換を行う。なお、漏えい量については、約20リットルと判断。漏えい水の分析結果は以下のとおり。
 - セシウム134：検出限界値未満（検出限界値 1.4×10^{-3} Bq/cm³）[採取日 H26/2/6]
 - セシウム137： 2.9×10^{-3} Bq/cm³ [採取日 H26/2/6]
 - 全ベータ：検出限界値未満（検出限界値 1.4×10^{-2} Bq/cm³）[採取日 H25/11/8]
- H26/2/6 10:50頃 5,6号機北側のFタンクエリアに設置しているAタンクとBタンク（A, Bタンクともに、5,6号機タービン建屋地下滞留水を貯水）の間にある流量調整弁と逆止弁間のフランジ部より、水が鉛筆1本程度の太さで漏れていることを当社社員が発見。漏れた水は堰内に留まっているが、一旦ビニール袋での養生を実施。なお、モニタリングポストの指示値に有意な変動は確認されていない。
その後、AタンクからBタンクへの移送配管のAタンク側出口フランジ接合部を切り離して配管内の残水を抜いたことにより、同日12:08、フランジ部からの漏えいが停止。
漏えい量は、漏えい範囲が約2m×約2m×厚さ約1mmであること（約4リットル）、ビニール袋等で漏えい水を受けた量が約74リットルであることから、総量約78リットルであることを確認。漏えい水の分析結果は以下のとおり。
 - セシウム134： 2.6×10^{-2} Bq/cm³
 - セシウム137： 6.5×10^{-2} Bq/cm³
 - コバルト60：検出限界値未満（検出限界値： 1.3×10^{-2} Bq/cm³）
 - マンガン54：検出限界値未満（検出限界値： 8.4×10^{-3} Bq/cm³）
 - ヨウ素131：検出限界値未満（検出限界値： 1.1×10^{-2} Bq/cm³）
 - 全ベータ： 4.6×10^{-1} Bq/cm³
 - γ 核種合計：約 7.1×10^3 Bq
 - β 核種合計：約 3.6×10^4 Bq漏えい停止後に目視にて漏えい部を確認したところ、ガスケットの損傷が見られたことから、当該ガスケットを交換。漏えいの原因は凍結によるガスケットの損傷と推測。
2/10 当該漏えい部および通水ラインの水張りを行い、漏えいがないことを確認し、滞留水の移送を再開。
- H26/2/8 低気圧による荒天になったことから、物揚場復旧工事に使用しているクレーン船を取水路開渠内に待避させるため、1～4号機取水口付近に設置したシルトフェンスの開閉を以下のとおり実施。
8:45（シルトフェンス開）～9:15（シルトフェンス閉）

【H4エリアタンク等からの水の漏えい関連】

<トピックス>

- H25/12/10 10:10～汚染水拡散の防止策として、H4エリア周辺に設置したウェルポイントから地下水の汲み上げを再開。

<タンクエリアパトロール実績（2/7～9）>

- 高線量当量率箇所（ $\beta + \gamma$ 線（ $70 \mu\text{m}$ 線量当量率））は確認されず。なお、2/9のパトロールにおいては、2/8からの降雪や堰内凍結の影響により $70 \mu\text{m}$ 線量当量率の測定は実施していない。
- 堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい効果により線量当量率は低い状態となっている。
- 目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと（漏えい確認ができない堰内溜まり水内を除く）を確認。
- 汚染水タンク水位計による常時監視で、タンク水位に異常がないことを確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。なお、2/9採取分においては、積雪による影響のため、採取できていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1,2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は2/10 0:00 時点で約 7,676m³ *集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・H26/2/6 地下水観測孔 No. 1-6 のサンプリングを実施 (初採取)。分析結果は以下の通り。
[地下水観測孔 No. 1-6 の分析結果：2/6 採取分]
 - ・全ベータ：560,000 Bq/L
 - ・トリチウム：110,000 Bq/L
- ・H26/2/7 地下水観測孔 No. 2-9 のサンプリングを実施 (初採取)。地下水観測孔 No. 2-9 の分析結果については、採取した水に懸濁物が多いことから参考値扱いとしているが、トリチウムの分析結果が、2, 3号機取水口間におけるウェルポイント汲み上げ水のトリチウム濃度と比べ約2倍となっている。そのため、採取時に放射性物質が混入した可能性が考えられることから、準備が整い次第、再サンプリングを実施予定。分析結果は以下のとおり。
[地下水観測孔 No. 2-9 の分析結果：2/7 採取分]
 - ・トリチウム：13,000 Bq/L (参考値)
 - ・全ベータ：1,700 Bq/L (参考値)
- ・その他の分析結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。なお、2/9 採取分においては、積雪による影響のため、採取できていない。

<移送関係>

- ・2,3号機東側に設置したウェルポイント(バキュームによる強制的な排水設備)からの地下水汲み上げおよび2号機タービン建屋への移送を適宜実施中。
- ・H25/12/11～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No.0-3-2 でトリチウムが検出されていることから、当該観測孔からの地下水の汲み上げを試験的に適宜実施中。
- ・H26/1/29～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No.1-16 で高い濃度の全ベータが検出されていることから、当該観測孔近傍に設置した地下水汲み上げ用の孔 (No.1-16(P))からの地下水の汲み上げを適宜実施中。

【地下水貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<トピックス>

- ・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。
- ・H25/10/3～ 地下水貯水槽 No.1 の汚染範囲調査開始。
- ・H26/1/30～ 地下水貯水槽 No.1～3 における貯水槽内部の残水について、H1 東エアータンクへの移送を適宜実施。

<地下水貯水槽サンプリング実績>

- ・2/9 採取分においては、積雪による影響のため、採取できていない。

以上